



SETTING EXAMPLE 山岸潤史

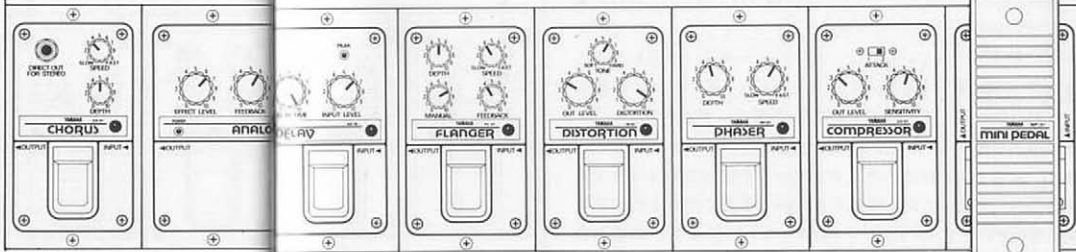
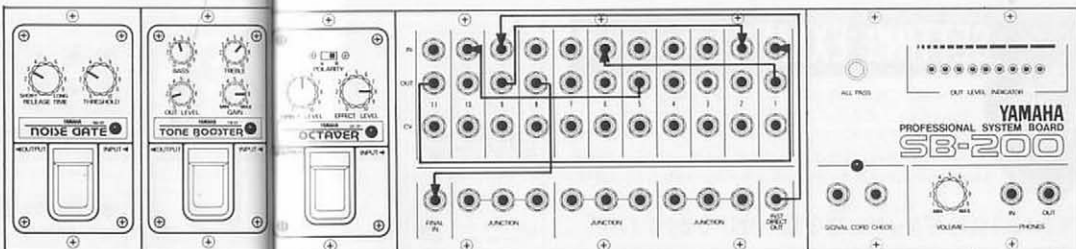
72年に、関西からウエスト・ロード・ブルース・バンドのギタリストとしてデビュー。以後、ソー・バッド・レビューでの活動を経て、現在はソロとして活躍。人間味あふれる独特の演奏スタイルで人気を集めています。数多くのセッションバンドを通して精力的にライブ活動を行なうとともに、すでに2枚のソロアルバムも発表。

あくまでも原音を大切にしたいストレートなシステム。

山岸潤史さんのシステムは、パッチパネルを上手に使った良い例。ミニペダルは踏みやすさを考え右端に、他のエフェクターも使用頻度を考慮して配置しています。コンプレッサーはアタック音を強調させるためにATTACKスイッチを2にセット。ディストーションからは、ハードなディストーションサウンドをつくり出しています。ディストーションは、彼の最もお気に入りのエフェクター。トーンブースターによる歪みもプラスさせて、独特のディストーションを得ています。彼は、トータルな考え方として原音が極端に変化するのをさくらため、エフェクターすべてを同時にONすることはありません。また、演奏中ALL PASSスイッチをダイレクト音を得るために積極的に利用するのも彼らしい使い方です。

■エフェクトの組み合わせパターン

- ①ディストーション→ノイズゲート→ミニペダル→コーラス
- ②オクターブワァー→ディストーション→ノイズゲート→ミニペダル
- ③コンプレッサー→ミニペダル→コーラス
- ④コンプレッサー→ディストーション→フランジャー→ノイズゲート→ミニペダル→コーラス



■接続順

1. オクターブワァー
2. コンプレッサー
3. フェイザー
4. ディストーション
5. フランジャー
6. トーンブースター
7. ノイズゲート
8. ミニペダル
9. アナログディレイ
10. コーラス

■バッチング

- INST DIRECT OUT → 9 IN
- 9 OUT → 2 IN
- 5 OUT → 10 IN
- 11 OUT → 1 IN
- 1 OUT → 6 IN
- 8 OUT → FINAL IN



SETTING EXAMPLE 山本恭司

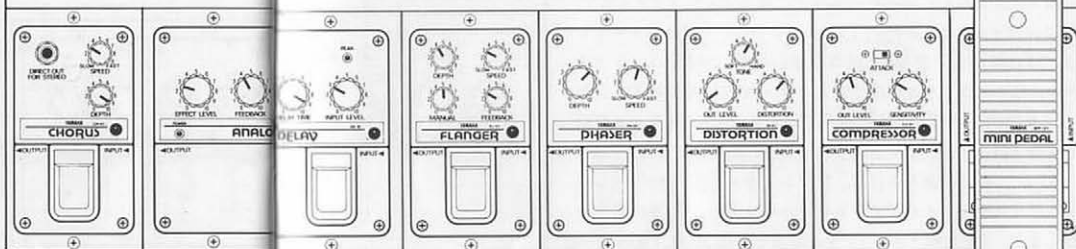
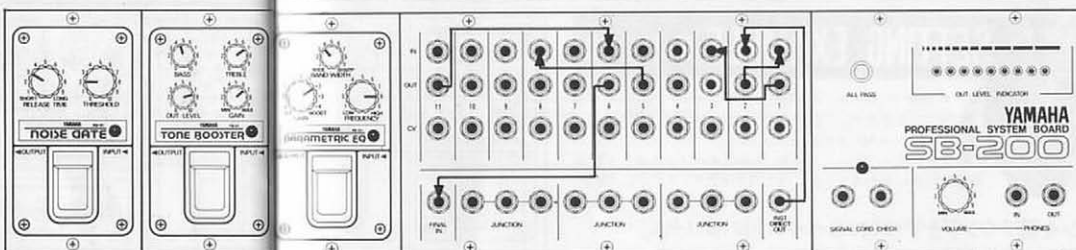
高校卒業の後、ネム音楽院のギター科に2年間に在学し、77年、パウワウのギタリストとしてデビュー。すでに、パウワウとして8枚、ソロで1枚のアルバムを発表。テクニクにささえられたハードなギターワークには定評があり、日本を代表するハードロッカーとして音楽雑誌の人気投票で常に1位ランクされています。

個性的なディストーションサウンドをつかって勝負。

山本恭司さんのセッティングは、フランジャー、アナログディレイ、コーラスなどスイッチ切り換えを頻繁に行なうものを左下、ほとんど常時ONしておくパラメトリックEQ、トーンブースター、ノイズゲートを上段に配置しています。彼は、ディストーションとフェイザーによるサウンドを好んで使用。ディストーションサウンドは、ディストーション、トーンブースター、ギターアンプによる歪みをミックスすることによって味違ったものとしています。コンプレッサーのATTACKスイッチは、アタック音をいっそう強調させるために2にセット。フレーズの中でサステインを得たい音だけにかけるような使い方もします。また、パラメトリックEQは音色づくり、トーンブースターは音色づくりと音質補正に用いています。

■エフェクトの組み合わせパターン

- ①ディストーション→フェイザー→パラメトリックEQ→トーンブースター→ノイズゲート
- ②コンプレッサー→コーラス→パラメトリックEQ→トーンブースター→アナログディレイ
- ③フランジャー→ノイズゲート
- ④パラメトリックEQ→トーンブースター→ノイズゲート→アナログディレイ



■接続順

1. コンプレッサー
2. ミニペダル
3. ディストーション
4. フェイザー
5. フランジャー
6. コーラス
7. パラメトリックEQ
8. トーンブースター
9. ノイズゲート
10. アナログディレイ

■バッチング

- INST DIRECT OUT → 2 IN
- 2 OUT → 1 IN
- 1 OUT → 3 IN
- 5 OUT → 8 IN
- 11 OUT → 6 IN
- 6 OUT → FINAL IN